教員名	石井　クンツ　昌子　(ISHII-KUNTZ　Masako)
所　属	生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
学　位	社会学学士 社会学修士（家族社会学　統計学専攻） 社会学博士　(家族社会学　ジェンダー社会学専攻)
職　名	教授
URL　／　E-mail	http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Ishii.html　／ ishii.kuntz.masako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

父親の育児・家事参加　／　ワーク・ライフ・バランス　／　家族の日米比較　／　高齢者のウェルビイーング　／　IT 社会の家族関係

◆主要業績　　総数　（　3　）件

・Ishii-Kuntz, Masako. “Asian American Families: Coping with Economic Hardship.” Jounal of Social Sciences and Family Studies. 13, 37-47.
・Ishii-Kuntz, Masako.“Child Caring Fathers in Japan and the U.S.A.” Annual Report of the Institute for International Studies. 9, 125-136.
・石井クンツ昌子　「日本の社会・人口動態的変化と家庭内性別役割分担の関係」日伊女性会議報告書

◆研究内容

家庭内のジェンダーダイナミックスを性別役割分担に焦点をあてて研究している。特に日米で育児・子育て・家事に積極的に参加している父親からヒアリングデータを収集したり、量的な大規模のデータを分析をするなどして、父親の育児・家事参加の規定要因を明らかにしてきた。また父親の子育て行動が子どもの社会性や情緒性にどのような影響を与えているかも調査している。他にワーク・ライフ・バランスにも注目して日米の就労する母親や父親がどのように仕事と家庭を両立しているのかも研究課題としている。また最近のプロジェクトのひとつとして育児期にある親の IT を媒体としたインフォーマルネットワークが世代間関係と育児満足度に与える影響についての日米比較研究がある。

◆教育内容

学部の担当科目は「家族社会学演習」「家族社会学総論」「生活調査法」「生活調査実習」であり、主に家族と社会の関係についての内容が多い。また家族の国際比較にも焦点をあてている。学部生には「考える力」を養って欲しいのディスカッションやディベートなどを取り入れた学生参加型の授業もしている。大学院では「家族関係論」と「家族論」を担当している。修士レベルでは主に英語の家族社会学研究論文を読み、日米の家族について詳細に学ぶ。また博士レベルでは毎年テーマを決め、そのトピックに関する本や研究論文を読み院生にプレゼンテーションをしてもらい、ディスカッションをする形式が多い。2006 年度のドクターゼミでは高度な社会学統計分析法をカバー、2007 年度は社会学・家族社会学の理論についてのゼミを行っている。大学院生には社会学で世界的に通じるプロの研究者になるように指導している。

◆Research Pursuits

I examine gender dynamics in families by focusing on the division of household labor and child care. Based on intensive interview data as well as large survey data collected in the U.S. and Japan, I researched factors affecting fathers' participation in child care and housework. My most recent research project involves studying how Internet technology is affecting the quality of child care and intergenerational relations among parents of young children.

◆Educational Pursuits

Undergraduate courses I taught in 2006 include "Family Sociology Seminar," "Family Sociology," "Sociological Research Methods," and "Quantitative Data Anlyses." Various topics in Family Sociology are covered from international perspectives. I also encourage students' participation in discussions and debates. At the graduate level, I taught "Family Relations" and "Family Sociology." Master's level students read research articles in English and discuss them in class. At the doctoral level, different topics are selected for each year. In 2006, my doctoral-level seminar focused on advanced statistical methods. In 2007, doctroal students are reading classic as well as contemporary sociological theories. I expect my graduate students to become a professional who will be recognized in the world stage of sociology.

◆共同研究例

IT 社会における育児期のインフォーマルネットワークと世代間関係：日米比較から

◆共同研究可能テーマ

・父親の育児・家事参加の国際比較
・父親と母親の育児と子どもの発達への影響
・ワーク・ライフ・バランス政策の国際比較

◆将来の研究計画・研究の展望

日本では IT 化が進み、家庭レベルでも様々な IT 機器が活用されている。しかし、IT 機器の活用が家族関係へどのような影響を与えているかの研究はまだ少ない。今後の研究ではインターネットを媒体とした子育てが育児期の親たちの育児満足度や世代間関係にどのような影響を与えているのかを探っていきたい。またこのような影響に男女差はあるのかも明らかにする計画である。この研究では日米比較も試みる。

◆受験生等へのメッセージ

私が大学院生を指導するにあたって重要視することは第一に自分の研究領域の中で一番のエキスパートになるということです。このためには丁寧かつ適切なアドバイスをすると同時に社会学のプロフェッショナルとしての高いスタンダードを大学院生に求めています。第二にヒューマニスティックな社会学者になるということです。そのために自分の研究を単なる統計上の結果で終わらせるのではなく家族やジェンダーに関わる諸問題に取り組むという見方ができる大学院生を育てることが重要だと思います。学部生に期待することは第一に幅広いアカデミック経験をしてそして家族社会学の基礎になりうる色々な文献を読み理解するように努力することです。第二に家族社会学の分野での研究課題を選択してその調査にエネルギッシュに取り組む姿勢です。大学は「考えることを学ぶ」場所だと思います。そういう機会を学生に与えられるように努力しています。